

社会システム科学概論第6回

マクロ社会学

社会構造概念

- A.R.Radcliffe-Brown 1881-1955
- 青柳まちこ訳『未開社会における構造と機能』新泉社、1975年
- 社会構造：個々人を結びつける社会関係の網の目 具体的には親族構造 社会構造の比較 家族・親族の範囲・関係 意味
- 祖先崇拜 宗教体系(piety)と親族の構造(家父長制)

インセスト incest taboo

- 生物学「近交弱勢(inbreeding depression)」を避ける遺伝的・文化的傾向をもった個体の方が、より多くの子孫を残す」
- 哺乳動物・靈長類「幼少期の密接な関係が交尾回避を引き起こす」母・子(父が集団内部に留まれば、家族的集団)性的対象は外部集団の雄・雌 集団間のつながり(ゴリラ・チンパンジーは敵対関係)(集団関係の協力関係が必要になり、性的関係：親族関係により絆を作る) 人類の親族構造へ

- M.Fortes
- 親族集団の秩序：年齢・世代
- 異年齢婚：70再婚男(子は40代)と30女(母になるか？)
- 異世代婚(同一親族)：父 - 娘(父と娘の子にとって、父は父、娘は母であり、父の子であるからキョウダイ：上であり同等！兄 - 妹(二人の子にとって、兄は父、母の兄であるからおじ：父母であり、おじおば？) 世代の交錯・役割の重複が忌まれる？
- 忌まわしさの根源：秩序破壊への恐怖
- 但し、神話(キョウダイ婚・親子・異類婚)の始源に秩序破壊：忌まわしさと聖性(秩序を示す)

- 諸説あるが、婚姻(社会関係構築)と性的関係(欲求充足と生殖行為)との微妙なずれ
 - 婚姻：外的集団との関係を求める(外婚制)
 - 性行為：生物学的理由と文化
-
- 人と社会構造：
 - 行為(欲求と行動) 家族 親族集団 社会的規制(タブー、慣習、掟・法) 文化(宗教)

家族の形態論把握

- 普遍的家族はない 時代・地域による変化
 - データ：国勢調査、世帯調査、大量観察
宗門改帳、教区簿冊等
- 研究の知見：戸田(核家族は三世代家族よりも多い、東北地方・都市型・内地一般型の家族類型)；小山(多層民家・大家族は生態的環境の結果、古代の大家族の残存形態ではない)、速水(東北日本型－西南日本型)

歴史社会学的家族理解

- ・伝統家族(家父長制家族、日本:家・同族)
- ・近代家族(子供期の発見、感情革命、家族が私的世界に、性別分業)
- ・ポスト・モダン家族
- ・1.ライフスタイルの選択 同性婚、別居、未婚
- ・2.グローバル化 国際結婚
- ・3.機能の縮小・選択 扶養共同体から感情共同体へ(扶養機能は国家、感情も？？？)

家族・学校・職場の変質と感情労働・感情処理の専門化

- ・アイデンティティ形成の場:共同体的性質
- ・社会生活の機能充足集団:利益組織的
- ・
- ・共同体の縮小 利益組織の拡大(結合定量の法則・機能定量の法則)
- ・ 利益組織の共同体化:感情処理労働の拡大(医療・福祉・セラピーの拡大、目的集団に感情処理を委任)
- ・ 処理が期待はずれ 逆切れ、お客様資本主義?

社会システム論 的社会構造

- ・社会構造social structure「一つの社会システムを形態面から特徴づけている、構成諸要素の間の相対的に恒常的なむすびつきである。」
- ・富永健一『社会学原理』岩波書店、1986年、184頁。

T. Parsons(1902-1979)

- ・社会システムsocial system:「機能的欲求充足の実現に指向する目標達成過程によって特徴づけられる」「欲求充足を求める目的的な状況適応過程たる行為」と対応関係にある。
- ・但し、社会システムには創発的特性があり、個人の諸欲求の総体がシステムの機能的要件になるわけではない。163頁。

- ・創発的特性emergent property:生物進化、或いは階層的秩序をなす実在において、低級次元では存在しないものが、高級次元に存在する。諸部分の総和に還元されない全体の特性。
- ・例:群衆行動;普段はおとなしい人々が突然、場の空気、要はお互いの相互作用の中で予想もできない行動をとる。或いは、社会的事実そのもの。家族は個人には存在しない人間集団化後の生物・文化的創発特性である。

機能function :

- ・「システムの要素、又は全体のいずれかによって担われる活動が、システムの目標達成及び環境に対する適応に関して是非とも充足されねばならない必要性に関わっていると解釈されるとき、それらの活動に対して付与される意味付のこと」193頁。
- ・「構造は記述概念。機能は説明概念。」194頁。

- 「一つの社会システムは、ある一つの構造のもとで、一定水準の機能的要件充足能力を持つ。人々の欲求水準が高まるか、あるいは当該システムにとって環境条件が変化するかによって、これまでのシステムの機能的要件充足能力で流行りていけなくなる場合、これまでの構造は当該システムの成員による支持を失う。すなわち、人々はシステムの機能的要件充足能力を高めるために、新たな構造を求めて現行の構造を捨て去る。」199頁。
- 社会変動へ

Parsons and Smelser, functional imperative 機能的命令

- adaptation 外部環境に適応するべくシステムが必要とする資源 経済
- goal attainment 資源を動員、管理して目標を達成する 政治
- integration システム内部の統制 コミュニケーション
- latent pattern maintenance システムを維持、内部の緊張を放出する 文化

N. Luhmann(1927-1998)

- 社会発展を社会システムが環境の複雑性を縮減するために、自己の複雑性を増大する過程と考える。
- システムは、自己の意味ある世界とカオスの外界に境界を設けて自己の同一性を維持しようとする。秩序のない環境に秩序をつけ、統御可能にするために、環境の複雑性と同程度に自己の理解能力・コントロール能力を増大させる。それがシステム内部の機能分化をもたらす。

- ルーマンは、社会システムを統合・維持する文化的価値のシステムが、他のサブシステムを意味的に統御するという立場をとらない。
- 価値のサブシステムを全体の社会システムとは別に設定するのではなく、社会システム 자체が意味を構成する意味連関システムであるという。自己組織性
- 社会統合は、社会システム内の分化したシステム間の相互依存性、それにより形成された意味によってなされる。
- パーソンズとの対比